

品目：キャベツ

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数) 9成分以下(露地秋冬)

化学肥料(窒素分量) 16kg/10a以内(露地秋冬)

技術体系例 キャベツ 露地秋冬

生育ステージ	作付前	播種	育苗	定植前	定植	生育期間中													
防除時期	作付体系	7~8月	播種時	7~9月	定植前	定植時	全般		生育初期			生育中期			生育後期				
防除方法・使用資材・薬剤名等	ほ場ローテーション	太陽熱消毒	抵抗性品種の利用	セル育苗・無病培土利用 雨よけハウス	防虫ネット	殺菌剤 殺虫剤	捕殺	病害株の引き抜き 不織布被覆	(臨時防除)殺虫剤 殺虫剤 殺菌剤	B T剤	B T剤	殺虫剤	微生物殺菌剤 殺菌剤	殺虫剤	殺虫剤				
立枯性病害	★	★		★	★			★											
べと病										●									
黒腐病								★											
軟腐病	★							★					★	●					
根こぶ病	★	★	★	★	★	●		★											
ヨトウムシ					★		★	★	●	★	★	●			●				
ハスモンヨトウ					★		★	★	●	★	★	●			●				
アオムシ					★	●	★	★	●	●	★	★	●		●				
コナガ					★	●	★	★	●	●	★	★	●		●				
オオタバコガ					★		★	★			★	★			●				
ハイマダラノメイガ					★	●	★	★	●	●			●		●				
ネキリムシ類							★	★											
ナメクジ類・ウスカワマイマイ							★	★											
コオロギ類					★			★											
(例)使用農薬等		(石灰窒素)	C R 品種				ネビジン粉剤	プレバソソ粒剤	寒冷紗・パオパオなど	(パダンSG水溶剤)	アフアーム乳剤	ジマンダイセン水和剤	ゼンターリ顆粒水和剤	ゼンターリ顆粒水和剤	アタブロン乳剤	バイオキパー水和剤	スターナ水和剤	コテツフロアブル	アフアーム乳剤
化学合成農薬成分数		(1)			1	1				(1)	1	1			1	1	1	1	1

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグラウンドカバープランツを植栽する。

病気 **苗立枯れ病** (なえたちがれびょう)

発生しやすい時期

8月下旬頃～9月中旬頃

原因 (発生要因)

- ・ 土にいるカビにより発生します。



苗の立枯れ

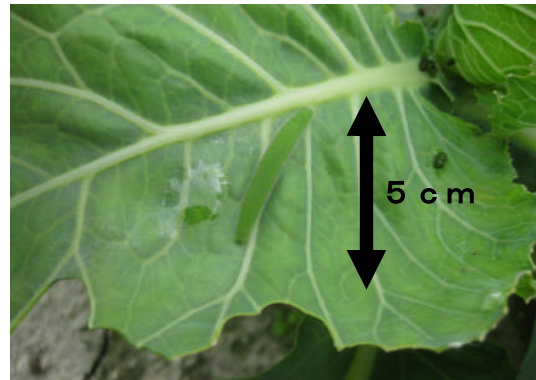
対策 (減農薬技術)

- ・ 育苗は消毒済みの土を使います。
- ・ 育苗中は水をやり過ぎないようにします。
- ・ 発病した苗は早めに抜き取ります。

害虫 **アオムシ** (モンシロチョウの幼虫)



アオムシのたまご



アオムシの幼虫

発生しやすい時期

8月下旬頃～10月中旬頃

原因 (発生要因)

- ・ モンシロチョウが飛んできて、卵を産みつけます。

対策（減農薬技術）

- ・ 防虫ネットなどで産卵できないようにします。
- ・ 定植するときに、粒剤を使うことで、農薬の散布回数を減らすことができます。
- ・ B T 剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。
- ・ 数が少ないうちは手で幼虫を取り除きます。
- ・ よく似た虫がいます（ヨトウ・タマナギンウワバなど）ので農薬を使用するときは注意してください。

害虫 **ハイマダラノメイガ**（通称：ダイコンシンクイムシ）



ハイマダラノメイガの幼虫



芯が食われたキャベツ

発生しやすい時期

8月下旬頃～9月中旬頃

原因（発生要因）

- ・ ハイマダラノメイガの成虫が飛んできて、卵を産みつけます。
- ・ 暑くて雨の少ない年にたくさん出ることがあります。

対策（減農薬技術）

- ・ 毎年芯が食べられるところでは、防虫ネットなどを使って卵を産みつけられないようにします。
- ・ 芯に入りこむので気付きにくく、薬も効きにくい虫です。定植するときに粒剤を使うと、農薬の散布回数を減らすことができます。

- ・ 芯が食われると玉になりません。植えてからしばらくは、芯が食われていないかチェックします。
- ・ B T 剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。

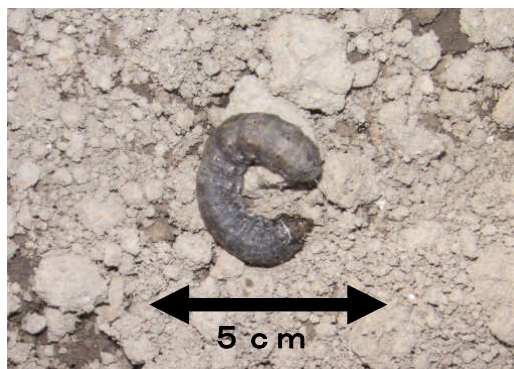
害虫 **ネキリムシ類**（カブラヤガなどの幼虫）

発生しやすい時期

8月下旬頃～10月中旬頃

原因（発生要因）

- ・ カブラヤガ、タマナヤガの成虫が、ほ場のあちこちに卵を産みつけます。
- ・ ヤブや雑草地の近くではたくさん出ることがあります。
- ・ 1匹でもたくさんの苗をかじりますので、被害が大きい虫です。



掘り出したネキリムシ

対策（減農薬技術）

- ・ 毎年芯が食べられるところでは、防虫ネットなどを使って卵を産みつけられないようにします。
- ・ 土の中にいるので、食べられた苗のまわりの土を取って、ふるいにかけて捕まえます。
- ・ 効果のある薬は化学合成農薬になります。使用回数に注意しましょう。

害虫 **アブラムシ類** → ブロッコリーの頁を参照

害虫 **ヨトウ類** → ブロッコリーの頁を参照